

商工会議所LOBO（早期景気観測）

-2022年12月調査結果-

調査概要

- 調査期間 2022年12月6日～12月31日
- 調査対象 200社
- 回答企業 128社
- 回収率 64.0%

※DI値（景気判断指数）について

DI値は、売上・採算・業況などの各項目についての判断の状況を表す。

ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。

従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

なお、従業員の項目については、DI値ゼロを基準として、プラス値は人員不足感を表し、マイナス値は人員過剰感を表している。

DI値 = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)

業況・採算：(好転) - (悪化) / 売上：(増加) - (減少) / 仕入単価：(下落) - (上昇)

販売単価：(上昇) - (下落) / 従業員：(不足) - (過剰)

旭川市概況

※全産業の12月の状況を見ると業況DIは、前月より13.0ポイント悪化の▲34.4となった。

2017年9月以来64ヶ月連続でマイナス水準を推移している。

※向こう3か月の全産業における、先行き見通し業況DIは▲36.7、当月と比べ2.3ポイントの悪化が見込まれる。

旭川市全産業DI値（前年同月比）の推移

	2022年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 2023年1月～ 2023年3月
業況	▲22.8	▲26.9	▲21.5	▲19.2	▲21.4	▲34.4	▲36.7
売上	▲0.8	▲2.4	10.3	14.4	3.9	▲11.7	▲24.2
採算	▲22.8	▲30.1	▲24.6	▲20.8	▲23.0	▲29.7	▲32.0
仕入単価	▲74.8	▲72.4	▲75.4	▲78.4	▲72.2	▲72.7	▲64.1
販売単価	35.7	34.2	36.5	32.8	37.3	33.6	22.7
従業員	28.4	34.9	37.3	40.8	40.5	35.2	34.4
資金繰り	▲15.5	▲14.7	▲12.7	▲10.4	▲11.9	▲14.8	▲18.0

旭川市産業別業況DI値（前年同月比）の推移

	2022年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 2023年1月～ 2023年3月
建設	▲48.1	▲46.7	▲43.3	▲38.7	▲35.5	▲53.1	▲50.0
製造	▲13.3	▲30.8	▲16.7	▲25.9	▲13.8	▲28.6	▲32.2
卸売	▲21.5	▲17.8	▲17.3	▲10.8	▲21.4	▲20.0	▲30.0
小売	▲31.6	▲21.0	▲21.0	▲16.6	▲11.8	▲25.0	▲18.7
サービス	5.3	▲10.0	0.0	4.7	▲19.1	▲40.9	▲45.5

今月のトピックス（業界の声・経営上の問題点）

建設業	<ul style="list-style-type: none"> ・完工高減、資機材価格の高騰により利益減少。（総合工事） ・当社の工事受注量は、戸建てを中心に昨年と比べ減少傾向が続いている。企業物価指数は11月速報値で対前年比9.3%の増加になっているが、売上単価に転嫁できていないため、当社の今後の業績はさらに低下することが必至と考えている。物価上昇分の価格転嫁を進めないといけなく感じている。その中でも、人材については、将来を見据え即戦力（資格保有者）と若い人材の確保を積極的に進めている。（設備・その他） ・建築資材の高騰や人件費上昇に伴い、住宅建築単価の値上げを余儀なくされ、ユーザーの住宅新築マインドの低下による売上減少が予想される。建築単価の上昇は、ユーザーにはある程度認知されているが、新築時期の先送りやグレードを落とすなど、当社にとっては厳しい経営環境が続いている。（建築業）
製造業	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年に比べ商品が流れているため、売上は増加しているものの、先行き不透明感が残る。仕入原材料も一部で再度値上げの予定もあるため、今後販売価格の変更等考える必要がある。（食料品） ・主力資材の値上げが続いており、全てを売値に反映させるのが難しい状況。特に紙の値上がりが大きく、年間で何度も値上げがされている。電気料金は約1.5倍となった。（印刷・出版） ・親会社の原木在庫が若干回復により、木材チップの加工量も予算を上回る。（家具・木材） ・仕入れ上昇分を価格転嫁できていない。現場の人手不足による工程の遅れが生じている。（金属窯業他）
卸売業	<ul style="list-style-type: none"> ・あらゆる商品の価格が上がったため、客単価を押し上げた。また全国的な寒波の影響で季節商品の売上を押し上げた。しかし、消費の低迷は実感しており、商品回転率は落ち込んでいくものと思われる。（繊維） ・ワークフローやスケジューラーといったグループウェアの活用を検討し、事業の透明化を図る取り組みを開始した。（飲食料品） ・仕入単価の上昇が続き、価格転嫁できてはいるが今後不安感はある。（機械鋼材） ・当月の業績は営業日数が少ないなど特殊な月であることから、前月と比較し売り上げが若干増加するもほぼ横ばい。本年は仕入れ価格の上昇を筆頭に厳しい経営環境であったが、概ね事業計画に沿った形に着地できるものと思料する。（その他）
小売業	<ul style="list-style-type: none"> ・年末に入り1年で一番売上の高い月になるが、平日及び週末の来店客が全くない。開店以来初めての経験であり、どのような対策を行っていけば良いのか全くわからない。資金繰りが厳しい。（衣服身回品） ・今月はコロナの影響が改善し、毎月対前年増収を継続していたが、コロナ前の水準まで戻ったこともあり、売上増もそろそろ頭打ちとなる可能性が出てきた。収益は確保できているが原材料、包装資材、人件費、光熱費等の高騰で今後は収益圧迫の懸念がある。現在も人材不足の状況が継続している。（食料品） ・降雪の遅れもあり、冬商戦（タイヤ他）があまり良くなかった。今後は寒さによる、灯油出荷・除排雪関係・軽油出荷に期待したい。（その他）
サービス業	<ul style="list-style-type: none"> ・観光客減少のため宿泊者が少なく苦戦。旅割の影響でホテルの稼働状況が読めない。病院寝具は安定している。（理美容・クリーニング） ・全国旅行支援を行っていても、コロナ感染拡大の影響が週末の客数が激減している。冬まつりなど一時的には増えるかもしれないが、引き続き厳しい状況が予想される。（ホテル・旅館） ・コロナウイルスによるイベント等の減少のため売上げが減少している。（その他） ・忘新年会シーズンに入り売上は以前のように戻ってきている。今後はこのままコロナが落ち着くことを願う。（飲食） ・降雪期になり利用者数は増え、増収方向になるものの、費用面も増大しており総合的にはまだまだ厳しい。（コロナ前の8割程度の回復）その状況のなかで借入分の返済等にかかる費用が事業の安定運営を脅かしている。この状況があと2年は続くことになる見込みで先行きへの不安は大きい。人員不足で安定運行も厳しい状況になれば、さらに危機感が増す。（運送）

旭川市の産業別概況

産業	概況
建設業	<p>売上 DI11.7 ポイント悪化、採算 DI11.0 ポイント悪化、仕入単価 DI10.1 ポイント悪化、販売単価 DI7.0 ポイント悪化、資金 DI9.0 ポイント悪化、従業員 DI23.8 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 17.6 ポイント悪化となった。業種別では、設備・その他横ばい、総合工事 14 ポイント、建築業 45 ポイント悪化となった。1 月以降、主要建材住設品が更に値上げになるため、いずれ価格の見直しは必要になるかもしれない状況にある。コロナとウクライナ戦争の影響は大きい。品質は保ちながらの営業戦略を進めて行く事が必要との声も寄せられている。</p>
製造業	<p>売上 DI3.5 ポイント悪化、採算 DI8.0 ポイント悪化、仕入単価 DI11.4 ポイント改善、販売単価 DI15.7 ポイント悪化、資金 DI7.4 ポイント悪化、従業員 DI8.3 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 14.8 ポイント悪化となった。業種別では、食料品、家具・木材横ばい、印刷・出版 25 ポイント、金属窯業他 33 ポイント悪化となった。資材は値上り基調のままとの声も寄せられている。</p>
卸売業	<p>売上 DI21.2 ポイント悪化、採算 DI7.4 ポイント改善、仕入単価 DI2.2 ポイント悪化、販売単価 DI3.3 ポイント改善、資金 DI7.6 ポイント改善、従業員 DI1.7 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 1.4 ポイント改善となった。業種別では、繊維・衣服等 40 ポイント悪化、食料品横ばい、機械鋼材 29 ポイント、その他 3 ポイント改善となった。コロナウイルス感染拡大のため、市中の飲食店への納品が減少。在庫については、市中相場下落による手持在庫含損の発生との声も寄せられている。</p>
小売業	<p>売上 DI30.9 ポイント悪化、採算 DI7.3 ポイント悪化、仕入単価 DI3.4 ポイント悪化、販売単価 DI1.5 ポイント改善、資金 DI6.2 ポイント悪化、従業員 DI4.0 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 13.2 ポイント悪化となった。業種別では、衣料品 50 ポイント、食料品 8 ポイント改善、その他 23 ポイント、自動車 40 ポイント悪化となった。降雪の遅れもあり、冬商戦(タイヤ他)があまり良くなかった。今後は寒さによる、灯油出荷・除排雪関係・軽油出荷に期待したいとの声も寄せられている。</p>
サービス業	<p>売上 DI19.5 ポイント悪化、採算 DI17.9 ポイント悪化、仕入単価 DI3.5 ポイント改善、販売単価 DI3.6 ポイント改善、資金 DI1.3 ポイント改善、従業員 DI2.1 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 21.8 ポイント悪化となった。業種別では、理美容・クリーニング、整備業横ばい、ホテル・旅館 25 ポイント、その他 40 ポイント、飲食 20 ポイント、運送 67 ポイント悪化となった。従業員や従業員家族のコロナ感染が急激に増加しており、仕事の進捗に影響が出始めているとの声も寄せられている。</p>